

令和2年度 学校総合評価

1 今年度の重点目標に対する総合評価

昨年度に引き続き「学習活動（教科指導の充実）」「学習活動（実践的英語力の充実）」「学校生活（生活指導の充実と健康な心身の育成）」「進路支援（学力の伸長および進路目標の設定とその実現）」「特別活動（ボランティアと図書）」「その他（国際理解教育の充実）」の6項目を重点項目とし実践した。いずれの項目についても過年度の目標を見直し、生徒の実態に合わせ数値目標を若干変更した。

(1) 「学習活動（教科指導の充実）」

今年度の互見授業は例年通り1学期と2学期に実施した。ICTを活用した授業や、若い教員の積極的な授業公開もあり、昨年度よりも平均の参観回数が増えた。ただし、コロナ禍のため外部研修会の機会は少なかったが、オンライン授業やG Suite for Educationを使った研修が進み、実践された。今後は一人一台タブレットの環境での授業研究が必須であり、教員同士の情報共有も求められる。また、それにとれない生徒の自主的学習の取組の育成も必要である。

(2) 「学習活動（実践的英語力の充実）」

1年生のGTECの得点と実用英語技能検定の取得率が目標を下回った。1年生は、入学後すぐに休校となり、授業で音読やグループ学習が例年より制限されていたことも一因であると思われる。2, 3年生は概ね目標を達成し、実用英語技能検定準1級に合格した生徒も4名に増えた。今後も英語コースだけに限らず、生徒のコミュニケーション能力をさらに伸ばしていく工夫が求められる。

(3) 「学校生活」

今年度も定期的な挨拶・服装指導を行い、大半の生徒は良好な状態である。また、生徒会自治委員会でスマホ利用についてのアンケートを実施し、その結果を学校祭で展示し喚起を図った。生徒主体での日頃からの呼びかけがもっと実践できればよい。

教育相談では、心の悩みを抱える生徒が複数いたが、スクールカウンセラーや外部機関と連携しながら共通理解をはかり対応することができた。

(4) 「進路意識」

外部講師による講演会や保護者向けの進路説明会は目標回数を達成することができた。特に卒業生による「進路ガイダンス」、PTA主催の「職業人が語る会」など身近な人からの進路講話は生徒に好評であり、学習の意義や進路意識を高めることに有効であった。学習時間については、平日の目標は例年並みで達成したが、休日の学習時間が減少した。週末課題の出し方の工夫と合わせて、生徒の取組の計画性を養う必要がある。

(5) 「特別活動」

毎年地域との交流活動を積極的に行っているが、今年度は地域の行事も中止となり、高齢者福祉施設への訪問もできず、ボランティア活動の機会がほとんどなかった。3月後半には手話講座を行い、高岡聴覚総合支援学校の生徒たちに向けてビデオレターを制作した。生徒会やボランティア委員の生徒たちが自ら考え積極的に活動するよい機会となった。

図書の活動では、新着図書案内や図書館便りの発行回数と生徒の年間貸し出し総数を目標に掲げたが両者とも目標を達成することができた。また、今年もひばり園で「読み聞かせボランティア」を行うことができた。

(6) 「その他」

国際理解教育においては、英国語学研修が大変大きな成果を得ており、その成果をいろいろな機会を捉えて、生徒に発表していくことを継続的に行っている。コロナ禍のため、昨年度に引き続き今年度も英国語学研修が中止されたが、その代替研修として、ニュージーランドとオンラインでつなぐ研修を3月に実施した。

2 次年度に向けての課題と方策

- ・新学習指導要領と観点別評価、またICT教育など授業改善に向けてさらに研修が不可欠となる。各教科において新学習指導要領を見据えた授業について研究と実践を行うとともに教科相互に連携し、福岡高校に適した授業形態を検討する。
- ・県下で唯一の英語コースをもつ学校として、英語検定やGTECの実績を積み、さらに高い目標を設定できるカリキュラムを確立していく。英語セミナーや講演会の充実、海外とのオンラインでのやりとり等を通して、生徒の視野を広げる取り組みを充実させたい。
- ・「生徒の進学への意識付けになる」と評議員会でも評価の高い「職業人が語る会」や「進路ガイダンス」を継続して行い、さらなる充実を図る。
- ・直接交流をしなくてもできるボランティア活動について生徒自身が考え、模索する。
- ・SNSの指導に関しては、「ネット被害防止教室」やHRなどで生徒への適切な指導を次年度も継続していく必要がある。